令和５年７月10日

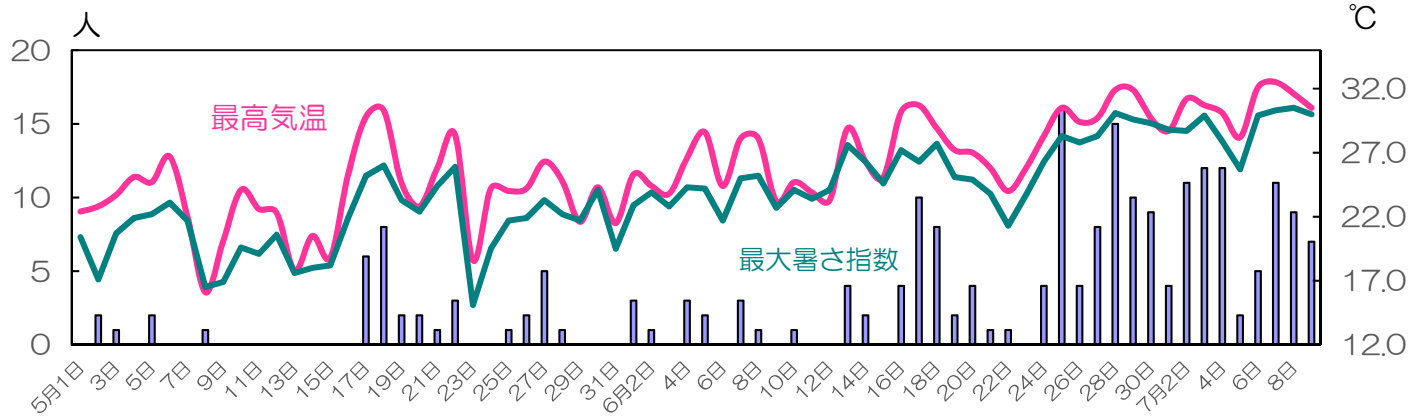
熱中症情報

＜搬送数＞

令和5年5月1日～7月9日までの搬送数（消防局データを使用）は、計226人（5月37人、6月116人、7月73人）でした。６月25日以降、最高気温が30℃（真夏日）・暑さ指数28℃（厳重警戒）を超える日が多くなり、搬送数も増加傾向です。

熱中症は、梅雨入り前の5月頃から発生し、暑い日が続いてくると多発する傾向があります。
気温が高いなどの環境下で、体温調節の機能がうまく働かず、体内に熱がこもってしまうことで起こります。

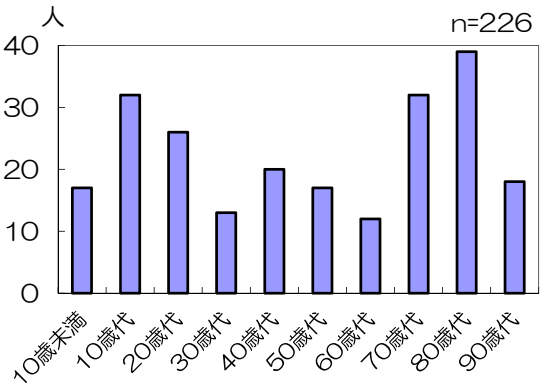
身体がまだ暑さに慣れていない梅雨の時期は、蒸し暑い日、風が弱い日、日差しが強い日等に増加する傾向がありますので、こまめに水分を取り、室温を適切に調節し、暑さから身を守りましょう。



暑さ指数とは？人間の熱バランスに影響の大きい①湿度 ②日射・輻射(ふくしゃ)など周辺の熱環境 ③気温の３つを取り入れた温度の指標　詳細は「環境省熱中症予防情報サイト　暑さ指数（WBGT）とは？」をご覧ください。

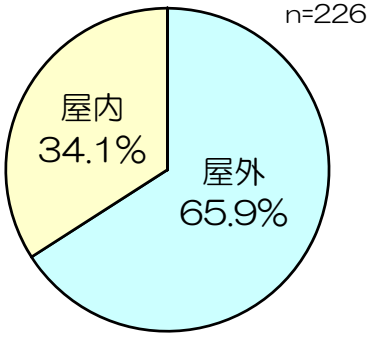
＜年齢別＞

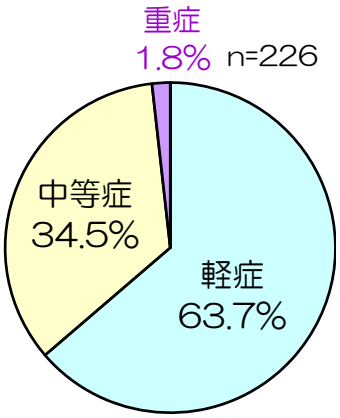
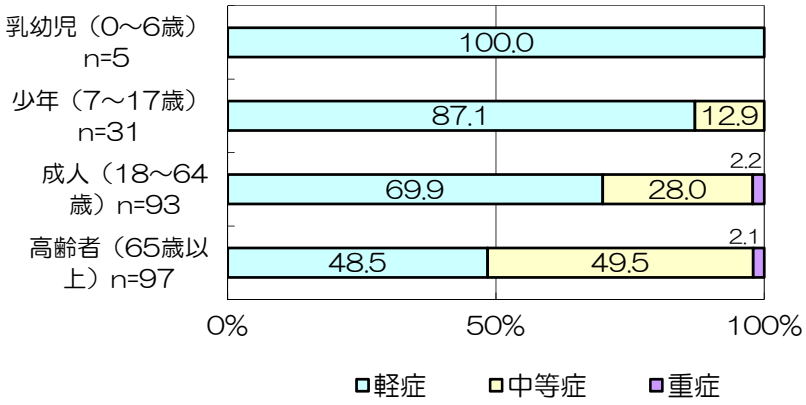
80歳代が39人（17.3%）で最も多く、次が10・70歳代で32人（14.2%）でした。



＜発生場所＞

屋外65.9%、屋内34.1%で、屋外での発生が多くなっています。



＜重症度＞

軽症63.7%、中等症34.5%、重症1.8%でした。高齢者（65歳以上）の中等症以上の割合が51.6%と、高くなっており、高齢者に重症化する傾向がみられます。